

事業報告

講座名	環境学習講座「オオサンショウウオの保護活動と地域づくり」
日時	令和2年11月29日（日）
場所	錦ふるさとセンター、宇佐川、宇佐川オオサンショウウオ保護施設
参加者数	23名

特別天然記念物オオサンショウウオ個体群の岩国市宇佐川流域における保護活動についての学習、保護施設での生態観察等を通じて、自然と人との共生の推進について理解を深めることを趣旨とした学習講座を開催しましたので、概要を報告します。

《概要》

1 日程

10:00～	開会
10:05～	講義1「里山の宝もの・オオサンショウウオ」 講師：日本オオサンショウウオの会会長 桑原一司 氏
11:20～	休憩
11:30～	講義2「錦町宇佐川のオオサンショウウオの保護活動」 講師：錦川オオサンショウウオの会会長 白井啓二 氏
12:00～	昼食・移動
13:00～	「オオサンショウウオ生息地見学」 指導：日本オオサンショウウオの会会長 桑原一司 氏 錦川オオサンショウウオの会会長 白井啓二 氏 緊急保護オオサンショウウオ飼育員 廣兼健 氏
13:30～	移動
13:40～	「宇佐川オオサンショウウオ保護施設見学」 指導：日本オオサンショウウオの会会長 桑原一司 氏 錦川オオサンショウウオの会会長 白井啓二 氏 緊急保護オオサンショウウオ飼育員 廣兼健 氏
15:30～	閉会

2 講義1「里山の宝もの・オオサンショウウオ」

桑原一司氏から、以下のような興味深い講演を受けました。

- ・オオサンショウウオは、極端に大きな口、小さな目、可愛い手足を持ち、のんびり動く非常にユニークで魅力的な生き物であること、生きた化石といわれ、世界一大きい両生類であり（70cm～1mを超えるものも）、両生類でありながら一生を水中で過ごすことなどから、特別天然記念物に指定され、「国宝」として扱われていること
- ・川岸の浅瀬の産卵巣穴（入り口が小さくて奥が広い）でヌシと呼ばれるオスと1匹の

メスと数匹のオスによる繁殖行動が、1週間ほどにわたり異なるメスが次々にやってきて行われること、産卵後はメスだけが巣穴に残り半年間にわたる子育てをすること、日本の両生類76種のうちでこのような子育てをすることはオオサンショウウオだけであること

- ・太古から今日までどのようにして生き残ってこられたのか、なぜとびぬけて大きいのか、何年生きるのか、なぜ両生類なのに産卵巣穴をもち子育てをするのか、など謎の多い不思議な生き物であること
- ・北広島町志路原では、護岸工事を工夫した「生きた川」づくりの取組、人口巣穴の設置と繁殖の成功、地域住民と安佐動物公園の人口巣穴の共同管理等により、人とオオサンショウウオが共存する川作りに成功していること、世界で唯一の産卵巣穴の内部を観察できる場所として注目を集め、海外からもテレビ局や研究者が訪れるようになったこと等、オオサンショウウオの保護活動が地域の活性化実現に向けた力強い原動力となっていること

受講者は、オオサンショウウオの珍しい生態や保護活動についての貴重な話に、熱心に耳を傾けていました。

3 講義2「錦町宇佐川のオオサンショウウオの保護活動」

次に、白井啓二氏から、岩国市錦町におけるオオサンショウウオの保護活動について、画像を交えて以下のような貴重な講演を受けました。

- ・2007年に宇佐川で群れが発見されたのを受けて、2011年に錦町で開催された日本オオサンショウウオの会全国大会において、宇佐川堰堤下でやせ細ったオオサンショウウオが23頭発見されたことがきっかけで、岩国市で緊急保護することが決定し、旧広東小学校校舎を活用して緊急保護が開始されたこと
- ・さらには、平瀬ダム工事に伴い、県土木と岩国市により、現在の宇佐川オオサンショウウオ保護施設での保護活動が始まり、保護したオオサンショウウオはこれまで1頭も死ぬことなく順調に回復し、地域の人々の手で放流が着実に進められてきていること
- ・錦町のように広い流域で多数の個体が生息する地域は極めて珍しく、地域の人々に保護意識が広がり、オオサンショウウオの文化がなかった錦町・岩国市が今はオオサンショウウオの話題にあふれる町になっていること、世界的にも注目を浴びて、海外からも視察者が訪れるようになってきている等から、今後も、オオサンショウウオの保護活動を通じて、さらに地域を活性化させていきたいこと

4 「オオサンショウウオ生息地見学」

午後は、実際にオオサンショウウオの目撃証言もある宇佐川流域を訪れ、生息地見学を実施しました。桑原一司氏から地図を用いて、錦川の生い立ちと宇佐川の地質と河原の石の説明や錦川支流のオオサンショウウオの3つの生息地の説明を受けました。

その後、河原に下りてオオサンショウウオが生息しそうな場所について3名の指導者から説明を受けました。観察することは叶いませんでしたが、生息する環境について五感で確かめる貴重な体験ができました。

5 「宇佐川オオサンショウウオ保護施設見学」

次に宇佐川オオサンショウウオ保護施設へ移動し、指導者から当施設において苦心を重ねてきた、オオサンショウウオの飼育方法等についての興味深い説明を受けながら、1 m近くある個体を間近に観察しました。エサやり体験では、ふだんはおとなしいオオサンショウウオが噛み付く時の俊敏さや危険性も身をもって体感しました。

受講者は、めったに見ることができないオオサンショウウオを実際に目にすることができ、その大きさ、迫力、愛らしさなどをつぶさに体感することができました。

6 まとめ

新型コロナウイルス感染症対策として参加人数を制限するとともに、当センターで設定した留意点に従い、安心・安全な講座運営（広い講義会場の設定、少人数分散での保護施設見学、健康確認票の提出等）に取り組んだ。

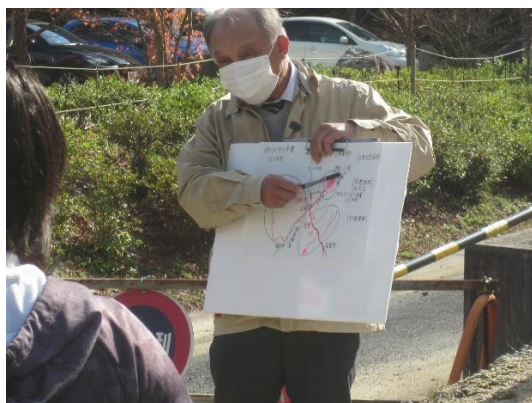
受講者は熱心に学習し、自然と人との共生の推進について理解を深めることができた貴重な1日になりました。



講義風景



講義風景



生息地見学風景



生息地見学風景



保護施設見学風景



保護施設での餌やり体験風景